

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2020年度)

専門分野区分	デザイン・作 画技法	科 目 名	デッサンIV	科目コード	D0520D2
配 当 期	前期・後期・通年	授業実施形態	通常・集中	単 位 数	2 単位
担当教員名	畑 卓也	履修グループ	<u>SC2SD2MC2DA2DV2</u>	授業方法	演習
実務経験の内容	芸術大学美術学科絵画専攻を卒業後現在までの二十数年間に、絵画・版画・造形などの作品制作と、イラストやデザインなどの仕事を通して得た経験を活かして、人間の視覚や知覚のしくみなどにも触れながら、基礎となるデッサンスケッチ表現技術習得の指導を行う				
学習一般目標	更なる構成力と表現力を身につける 複数の形状・質感・色の異なるモチーフを捉え表現できるようになる。 人物・動物の骨格をふまえ、かたちや動作を表現できるようになる 透視法によって、屋内外の空間を捉え表現できるようになる。				
授業の概要 および学習上 の助言	受け取る情報の大半は視覚を通して取り込まれる。 物を観る眼（モノを把握し捉える能力・観察力）を身につけることで、必然的に描写力や表現力が身についていきます。観ることを忘れずに取り組んで下さい。積み重ねることではか身につけません。				
教科書および 参 考 書	受け取る情報の大半は視覚を通して取り込まれる。 物を観る眼（モノを把握し捉える能力・観察力）を身につけることで、必然的に描写力や表現力が身についていきます。観ることを忘れずに取り組んで下さい。積み重ねることではか身につけません。				
履修に必要な 予備知識や 技能					
使用機器	各自用意するものとして、 鉛筆 (2H～4B )、練削しゴム、カッターナイフ、デッサンスケール、クリップ 水彩道具一式 (水彩絵の具、筆、パレット、水入れ、雑巾)				
使用ソフト					
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が達成すべき行動目標			
	1	空間表現の基本、遠近法の理解と把握し、陰影法により立体感を表現できる。			
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。			
	1	骨格や構造を理解し、人物表現できる			
	5	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる。			

達成度評価	評価方法		試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計
	総合評価割合						80		20	100
	学部 D P						80			80
									20	20
評価の要点	評価方法		評価の実施方法と注意点							
	試験									
	クイズ 小テスト									
	レポート									
	成果発表 (口頭・実技)									
	作品		授業内制作作品と授業外制作作品(宿題)に対する評価							
	ポートフォリオ									
	その他		授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況							

授業明細表

回数/日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1週 /	各自の力量、苦手部分に対して目標を設定し ①～④のレベルで作品制作。 ①「石膏像」マルス・アリアス・など		
第2週 /	②「組モチーフ」 ③「二・三個のモチーフ」 ④「一個のモチーフ」 缶・ビン・ランプなど		
第3週 /	●モチーフ①「石膏像」 第1回から13回までを通して制作 構図を考え、構造や骨格、ボリュームと		
第4週 /	細部の関係をしっかりと把握し形を捉え 表現する		
第5週 /	●モチーフ②「組モチーフ」 13回までを通して制作。構図を考え、 空間やボリュームと細部の関係を把握し		
第6週 /	形を捉え、質感や細部まで表現する		
第7週 /	●モチーフ③「二・三個のモチーフ」 モチーフ2～3個を組合せ作品制作 13回で2～3作制作 形・質感・色味・文字や模様など細部まで		
第8週 /	こだわった作品を一点ずつ仕上げる		
第9週 /	●モチーフ④「一個のモチーフ」 単体のモチーフを13回で3～4作制作 形・質感・色味・文字や模様など細部まで		
第10週 /	こだわった作品を一点ずつ仕上げる		
第11週 /			
第12週 /			
第13週 /			
第14週 /	「人体デッサン」 人体骨格の把握と理解		
第15週 /	「人体デッサン」  講評		

